

## 患者の皆様へ

私たち血液・腫瘍内科では、有効で安全な治療の開発を目指し、以下の臨床研究をおこなっています。

### 課題名

#### **「造血器悪性疾患における造血成長因子受容体、ならびに細胞内シグナルの遺伝子変異と分子異常の解析」**

(意義・目的・実施方法)

近年の新規治療薬の開発、予後因子の同定、造血幹細胞移植医療技術の向上などにより白血病、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍の治療成績はめざましい改善を遂げてきました。しかしながら、いまだにこれらの疾患の完全な克服までには、まだ遠い道のりがあり、更なる詳細な病態の解明に基づく、治療薬の開発、治療戦略の進歩は喫緊の課題です。

われわれ京都府立医科大学血液・腫瘍内科学教室は、これまでにこうした進歩に寄与すべく、造血器悪性腫瘍における遺伝子変異や染色体異常、分子標的探索などにおける様々な研究成果をあげてきました。こうした研究の一方で、研究対象疾患の更なる多様化、細胞生物学的・分子生物学的研究技術の進歩にふれ、研究対象検体や解析項目の拡充を目的とした、より包括的に多くの研究対象、研究課題としうる新たな研究計画の確立は、今後の造血器悪性腫瘍研究において必須の事項です。本研究の目的は、京都府立医科大学血液・腫瘍内科

で 2001 年 4 月以後に保存された患者由来の腫瘍細胞・組織、あるいは今後の研究期間に採取される患者由来の腫瘍細胞・組織を保存し、これらの細胞、組織、ならびにこれらに由来する核酸(DNA, RNA)、タンパクを検体として、各種造血器悪性腫瘍（白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など）における各種の遺伝子変異や分子制御異常を幅広く解析、検討し、それぞれの疾患における新たな予後因子の抽出、治療標的分子の探索を行うことです。なお、この臨床試験は、臨床試験の中でも「研究者（医師）主導臨床試験」に分類されます。研究者（医師）主導臨床試験は、研究者（医師）が主体となって非営利で行うものです。厚生労働省による承認を得ることを目的とし、未承認薬などを用いて主に製薬企業が主体となって行う、新薬などの「治験」と呼ばれる臨床試験とは異なります。

#### （対象者）

2001 年 4 月以後に、血液・腫瘍内科で診療を受けられた患者さんの、以前に採取された骨髄細胞や組織のうち、必要な検査に使用した後の残余を使わせていただきます。なお、個人情報には研究実施責任者が責任を持って管理します。データはコンピューターで管理しますが、ネットワークからは隔離したコンピューターを用いますので、外部に漏れることはありません。また、研究は個人が特定できる情報を削除した後に行われます。従って研究発表などで個人が特定される情報は全く用いられません。この研究は京都府立医科大学医学倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。実施期間は承認日～2024 年 3 月 31 日です。被験者になることにご同意いただけない場合は、恐縮で

すが、お申し付けください。

本研究に患者の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。この研究計画について御質問がある場合は下記までご連絡ください。

京都府立医科大学附属病院 血液・腫瘍内科 教授 谷脇 雅史

(実施責任者)

(連絡先：血液内科 医局 075-251-5740)